

東京都写真美術館プレスリリース

東松照明[Tokyo 曼陀羅]

TOKYO MANDALA: The World of Shomei Tomatsu



東京都写真美術館 2階展示室

2007年10月27日(土) ~ 2007年12月16日(日)

< 展覧会概要 >

戦後を代表する写真家 東松照明（とうまつ・しょうめい）は、1954年愛知大学を卒業後上京し、岩波写真文庫のスタッフとなった後、56年からフリーランスの写真家として活動を始めました。名古屋、東京、沖縄、千葉、長崎と拠点を変えながら、日本の写真表現を切り開く重要な作品を次々と発表し、今日世界的な評価をゆるぎないものにしています。

本展「Tokyo 曼陀羅」は、「長崎マンダラ」（長崎県立美術博物館・2000年）「沖縄マンダラ」（浦添市美術館・2002年）「京まんだら」（京都国立近代美術館・2003年）「愛知曼陀羅」（愛知県美術館・2006年）と、撮影拠点をキーワードに個別のテーマ性や時代性を解体して再構成する「曼陀羅」シリーズの最後に位置するものとなります。

作品としては、1950年代末から60～90年代まで、東京を拠点として千葉、神奈川など関東一円で撮影された作品「占領」、「アスファルト」、「I am a King」や「新宿」、「プラスチック」、「インターフェイス」など、東松の写真世界を代表する著名なシリーズに加えて、同時期、やはり東京を拠点に各地での取材撮影でとらえた「恐山」や「桜」など重要なシリーズも展示いたします。また本展では、これらの各シリーズの著名な作品はもとより、今回あらたにネガにまで遡って選出された未発表作品を含め、当館のコレクションと新たにインクジェット・プリントで制作したものを合わせた307点（予定）で構成します。

日本を見つめ、日常と一体となりながら写真との関係性を表現し続ける写真家・東松照明のまなざしの原点と現在が浮かび上がります。

マンダラ写真展は、私が撮り続けた日本の地域ごとに、改めてフィルムをすべて見直し、精査選択した写真から成っている。その作業で困難を極めたのは「Tokyo 曼陀羅」である。なぜなら、わたしは20代から60代までの約40年間、東京エリアを拠点に写真活動を続けてきたので、撮影地域も広く、選択対象となる写真の量が圧倒的に多かったからである。5マンダラの展示作品に重複はない。総数は1,183点。1950年から2001年までの半世紀、撮りためたわたしの写真のなかの主要作品は網羅、と自負している。（東松照明）

「Tokyo 曼陀羅」展カタログより抜粋

東松照明略年譜

- 1930 愛知県名古屋市に生まれる
- 1954 愛知大学卒業後、上京し岩波写真文庫のスタッフとなる
- 1956 フリーランスとして活動をはじめ
- 1958 第1回日本写真批評家協会新人賞を受賞
- 1959 セルフエージェンシーVIVOに参加
- 1966 写真集『<11時02分>NAGASAKI』を刊行
- 1967 写真集『日本』を刊行
- 1972 沖縄に移住
- 1975 写真集『太陽の鉛筆』を刊行。
同書により第17回毎日芸術賞、第26回芸術選奨文部大臣賞を受賞
- 1981 「いま！！東松照明の世界・展」が全国を巡回
- 1996 「東松照明写真展 Interface」(東京国立近代美術館フィルムセンター)
- 1998 長崎に移住
- 1999 「日本列島クロニクル - 東松照明の50年」(東京都写真美術館)
第31回日本芸術大賞(新潮文芸振興会主催)を受賞
- 2000 「長崎マンダラ」(長崎県立美術館)
- 2002 「沖縄マンダラ」(浦添市美術館)
- 2003 「京まんだら」(京都国立近代美術館)
- 2004 「Shomei Tomatsu: Skin of the Nation」(サンフランシスコ近代美術館ほか世界巡回)
- 2006 「愛知曼陀羅」(愛知県美術館)

■担当学芸員インタビュー

談：金子隆一（東京都写真美術館専門調査員、本展担当）

名古屋で生まれ育った東松は、1954年に愛知大学を卒業した後、上京し、岩波写真文庫のスタッフに加入了。しかし1956年からはフリーランスの写真家として活躍を始めます。1957年、写真批評家福島辰夫が企画する「10人の眼」展に参加し、戦後世代の若手写真家として注目を集めます。1959年になると、川田喜久治、細江英公、奈良原一高、佐藤明、丹野章と作った写真家によるセルフエージェンシー「VIVO」に参加。この時代の代表的な作品としても名高いのが、「<11時02分>NAGASAKI」です。この作品のユニークなところは、単に原爆の長崎をとらえたものではなく、江戸時代から続く長崎、都市としての長崎、そして原爆の長崎という複数の時間を重層的に表現したところでしょう。

その後、高度経済成長のなかで様変わりしていく都市を問題とした「I am a King」や「新宿」、基地の風景を写しだした「占領」(現在は「チューインガムとチョコレート」)など、意欲的に作品を発表し続けました。

東松の興味を大きくシフトさせたのが、1969年に訪問した沖縄でした。戦後社会を色濃く映し出す土地という予想に反した現地の沖縄古来の習俗や宗教儀礼、自然などに強く興味を抱いた彼は、沖縄に移住し、そこでの暮らしを拠点としながら写真を撮るようになったのです。このときから彼の写真を撮る意味が大

きく変わりはじめました。つまり、ただ単に何かを表現するというのではなく、自分自身の全人格、全存在、生きることそのもののメディアとして沖縄という場と写真に関わらせていったのだと思います。同時にこの沖縄での撮影を境にして、モノクロからカラーへの転換もしています。東松にとって、この沖縄という土地は、写真を撮ることの原点を示す大きな経験を可能とした場所でした。

その後、いったん東京に戻った彼は、森山大道、荒木経惟らとワークショップ写真学校などの活動を展開し、若い世代の写真家たちに強い影響を与えました。しかし、この頃、東松は大病を患い、九死に一生を得る経験をします。それを機に、療養のため、千葉県上総一ノ宮に居住を移しました。そして、この千葉での生活を通じ、写真を撮ることにおいてもリハビリテーションが行われていったといっているのではないかと思います。この時期の作品が、海岸に打ち上げられた漂泊物を真上からとらえた「プラスチック」です。黒々とした砂浜に、まるで星座のように埋まった色とりどりのプラスチックは、まさに80年代を象徴していました。そして現在、東松は長崎に拠点を移し、活動を続けています。

今回の「Tokyo 曼陀羅」は、このように撮影拠点を移しながらも各地をめぐり、個別のテーマ性や時代を解体して再構築する東松照明の“曼陀羅シリーズ”の最後に位置するものです。撮影拠点とする場所はあくまでもキーワードにすぎず、例えば東京を拠点としていた時期に取材撮影した「恐山」などのシリーズも入っています。

東松照明の作品は、非常に現実性を重視しているため、ときには鋭利な刃物で切られるような痛みを伴います。現在、携帯電話などで撮影される可愛い画像の対極にあるといってもいいでしょう。ですから、安易な美しさを求めたときには裏切られると思います。それほど重く、厳しい表現で私たちに問題を投げかける作品なのです。どんなに抽象的に見えたとしても、よく見れば、それが日常的で極めて現実的なものの集積でしかないと分かります。それは、静止した写真というものでしか表現できなかったものなのです。それを最大限実現してくれるのが東松の魅力なのでしょう。

(2007年7月インタビュー、文：加藤みのり)

<フロアレクチャー>

- 担当学芸員による展示解説を会期中、毎月第1、第3、第5金曜日16:00より行います
(観覧券をお持ちの方はどなたでも参加できます)

<展覧会関連出版物のご案内>

- 展示出品作品をすべて掲載したカタログを刊行します(価格未定)
当館ミュージアムショップで販売いたします

<開催概要>

展覧会名	東松照明[Tokyo曼陀羅] TOKYO MANDALA: The World of Shomei Tomatsu
主 催	財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 読売新聞東京本社 / 美術館連絡協議会
特別協賛	キヤノン株式会社 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社
協 賛	ライオン / 清水建設 / 大日本印刷 / 東京電力
協 力	フォト・ギャラリー・インターナショナル
会 場	東京都写真美術館 2階展示室
開催期間	2007年10月27日(土) ~ 12月16日(日)
開館時間	10:00 ~ 18:00 (木・金は20:00まで)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は翌日の火曜日)
観覧料	一般800(640)円、学生700(560)円、 中高生・65歳以上600(480)円 ()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員割引料金 小学生以下、障害をお持ちの方とその介護者は無料 第3水曜日は65歳以上は無料

<お問い合わせ先>

東京都写真美術館 <http://www.syabi.com>

〒153-0062 東京都目黒区三田一丁目13番3号 恵比寿ガーデンプレイス内

■展覧会担当

金子 隆一(かねこ りゅういち) / 中村 浩美(なかむら ひろみ)

E-mail: r.kaneko@syabi.com / h.nakamura@syabi.com

電話 03-3280-0031 FAX 03-3280-0033

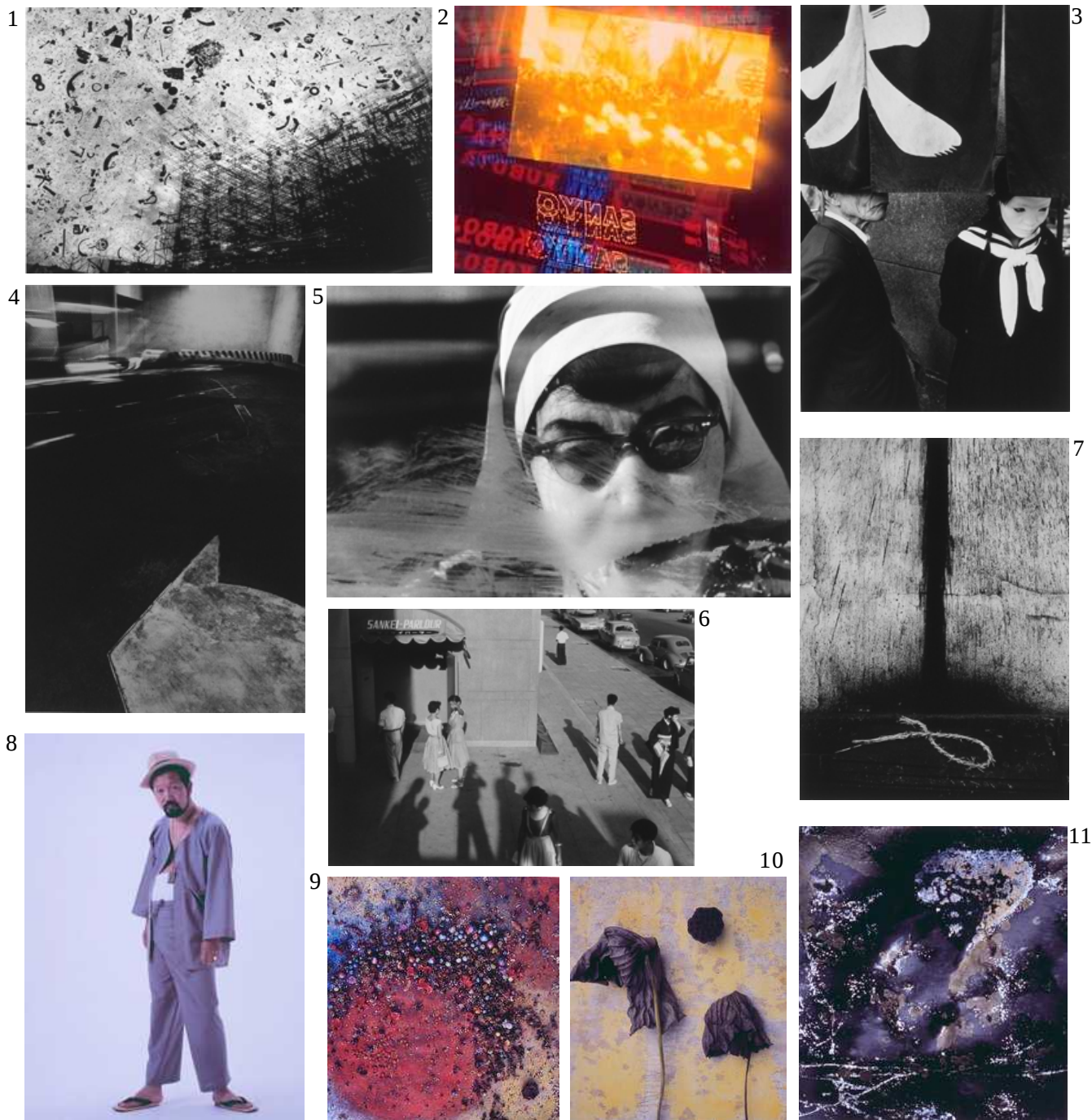
■広報担当

久代 明子(くしろ あきこ) / 島津 彰子(しまづ あきこ)

E-mail: a.kushiro@syabi.com / a.shimazu@syabi.com

電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

東松照明[Tokyo曼陀羅]プレス図版



上記のプレス用掲載図版をデータにてご用意しております。ご希望の番号を広報担当までご連絡ください

1. 「オリンピック・カプリッチオ」 東京 1962 年 東京都写真美術館蔵
2. 「反戦 1」 東京 1968 年 作家蔵
3. 「アリバイ 4 俳優 高橋美智子」 東京 1971 年 東京都写真美術館蔵
4. 「駐車場」 東京 1962 年 東京都写真美術館蔵
5. 「チューインガムとチョコレート」 北海道・千歳 1959 年 東京都写真美術館蔵
6. 「ファッション」 東京 1955 年 作家蔵
7. 「路地裏 1」 東京・新宿 1960 年 東京都写真美術館蔵
8. 「写真家 4 東松照明」 東京 1978 年 作家蔵
9. 「ゴールデン・マッシュルーム 3」 1990-91 年 作家蔵
10. 「ゴールデン・マッシュルーム 1」 1990-91 年 作家蔵
11. 「インターフェイス 26」 牡鹿半島 1994 年 作家蔵

< 掲載に際してのご注意 > 1 図版はトリミングできません。 2 図版をご掲載の際は、必ずキャプションもいっしょにご記載ください 3 掲載前にゲラを拝見させていただきますようご配慮をお願い申し上げます 4 お渡しした図版は、本展の紹介以外での目的では使用できません。このことに関して発生したトラブルについて当館は一切責任を負いかねます 5 作品図版は実際の展示と異なる場合があります。 6 掲載紙をご寄贈いただきますようお願い申し上げます。